がんサポ通信

第 50 号
令和 5 年 8 月 17 日発行
緩和ケア委員会

令和5年度 第1回　地域連携緩和ケア協議会（意見交換会）

地域連携緩和ケア協議会は地区医師会、薬剤師会、医療機関、介護保険施設等の関係者が意見交換や情報共有を図り、連携した緩和ケアの提供を構築することを目的に開催しています。

4月に開催した令和5年度第1回 地域連携緩和ケア協議会（意見交換会）では、「高齢者の在宅看取りが、緩和ケアまで行ける事例が少なく、入院での看取り例が多い。老健、特養以外で看取りができる施設が少ない。」「施設では医療依存度の高い利用者が多く、日常生活に関わるケアの偏りや職員負担増が懸念される。」などの議題が出された。庄内保健所の蘆野所長より、「全国的な課題であり、様々な要因がある。地域独自の課題もあるが在宅医療部会で整理し、取り組んでいく流れを考えている。一度で解決できる問題ではないが将来的には解決していく必要があるため、できるところから対応していきたい。」と意見があった。

地域包括ケアシステムを推進していくなか、地域全体の問題として捉え、人々が安心して過ごせるように地域支援者と連携し、緩和ケアを提供していく必要があると改めて考える機会となりました。

6月　症　例　検　討　会

「CADD ポンプ装着で在宅療養された事例」

症例検討会では、地域連携緩和ケア協議会会員と症例に関与した医療機関等を招き、「CADD ポンプ装着で在宅療養された事例」に対し、当院のがん診療サポートチーム介入のきっかけや介入支援状況、入退院支援センターの支援状況について報告。事例内容を共有したうえで、①在宅移行後、対応に困った点や要望について ②ご本人・ご家族との関りについて ③在宅療養していくうえでの課題や検討したいこと等について、具体的な検討を行いました。訪問看護ステーションからは、「CADD ポンプ使用での在宅療養介入は少なかったが、カセット交換時は2人訪問とし、チェックリスト作成でダブルチェックしていた。」「退院時より情報共有することで在宅主治医と連携を密にスムーズに行えた。」「ご本人・ご家族にとって大切な時間を過ごすことができた。」と報告があった。また、他の訪問看護ステーションからは「CADD ポンプ使用経験のある薬局と連携して行っている。」との報告もあり、在宅療養支援での連携に関する情報共有が行われた。今後もCADD ポンプ使用下での在宅療養は増えていくことが考えられ、地域の多職種と連携して進めていくことで意思統一できる機会となりました。

緩和ケアの申し込み・問い合わせ は
緩和ケアリンクナース　または、緩和ケアセンター（内線 3880）まで